就学前の弟を隣に座らせて授業を受ける子どももいました（ラヒット小１年生クラス）

ビラーン通信 80号

2015年1月25日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/hands/
郵便振替口座　00210-5-72693
（加入者名）ビラーンの医療と自立を支える会

ものの支援よりも、働く人びとを支える活動を　－　円安試練の中で求められる真のニーズ見極め　－

11月26日夕刻、マニラ空港に着いた私たちスタディー・ツアー一行は、まず構内の両替所に向かいました。3,700ペソ/1万円は予想の範囲内で、ほっとしましたが、前回渡航時6月の4,100ペソを思い出して、改めて1万円札の軽さを感じました。

今回のツアーは治安状況を考慮して、会員限定で募集したものですが、一般会員は少なく、理事やスタッフが半数以上という構成になりました。現地体験を楽しみながらも、円安で目減りする事業資金を、次年度はどう配分するかを念頭に置いて、各パートナーとの協働事業を評価し、課題の把握に努めました。ツアー全般の報告、感想は寄稿欄（P6-7）に譲って、ここでは、現地で見えたことをもとに、新年度の活動の方向性を探ることにします。

－薬代よりも、医療事情改善に働く人の支援を　－

27日、ジェネラルサントス空港に着いたその足で向かったのはラムアフス小学校です。一緒に給食を食べ、持参した寄付歯ブラシ90本をマリオ先生に渡しました。10代で歯を失わないように、歯磨きを習慣づけるために教師たちの指導を仰いでいます。１年前に訪問したアトモロック小学校では、先生方が家庭訪問をして、今は約半数の子どもが朝晩歯磨きをしているということでした。また歯磨きだけでなく、家庭での薬草栽培指導にも、これら山の学校の先生の協力は不可欠です。医薬品代支援は減額しても、子どもの健康管理や母親たちの指導をする先生方への特別手当は継続したい支援です。

翌28日に訪ねたブラコン村でも「働く人」支援の重要性を感じました。ここはPIHS（代表ナプサさん）の指導で、村の保健ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ（CHW）を中心に、ヤシ屋根材の共同出荷による利益を財源とした母親対象の識字教室、幼児の給食、ハーブ薬や母子保健研修などをしています。研修医（ナプサさんの姪）による無料診療も見学しました。問診、血圧測定に基づく生活指導が中心で、市販薬を渡すケースはほとんどありません。実際にここ数年、私たちのPIHS支援は、村の保健活動のための自主財源づくりを支えることが中心で、医薬品代は含めていません。

2014年度のPIHSを通じての支援は、助成なしの自己資金によるものだったため、スタッフ給与補助、交通費、ブラコンを含む村のCHWの子どもたち約20名への奨学金と限定的でした。このため、年明けに届いたPIHSの4-12月報告には、CHWが集まって、互いの村の事例、課題を共有する研修会は、資金不足で3回しか開催できなかった、毎月集まることができれば・・という記述がありました。「人」を育て、「人」が働くPIHSについては、緊縮予算の中ですが、重点的に配分できればと思います。

－　教育分野では、給食支援の継続拡充を　－

1年前にも触れましたが、今回の訪問でも、改めて幼児及び初等教育における給食の重要性を感じました。限られた予算の中、当番の母親たちが、身近な食材で栄養豊かな食事作りを学ぶ場になっていて、ここでも指導にあたる教師やCHWの役割は重要です。

－地元政府との連携で進める環境保全事業　－

森林事業実施のティヌオスからの帰途、環境省の植林計画の看板を見つけました。在来種苗木提供等、地元政府の協力があるレイクセブ町で、PFPや私たちに求められるのは、収入につながる樹木作物の支援と、環境保全の理念や技術研修、長期にわたる住民への実地指導、事業モニターです。環境分野でも、住民とともに働く「人」、農業技術者や、教育を受けた地域リーダー等を支えることが、先住民族の最大のニーズである貧困解消に必要な支援と感じました。（山﨑）